

2026年度 審判規則委員会基本方針について

(公財)日本中体連バレーボール競技部審判規則委員会

I. 基本方針

中体連に所属する審判員の活動は、未来のバレーボール界を支える選手の育成を視野に入れたものである。公正・公平な競技運営を通じて、バレーボールの競技力向上に資する審判技術のレベルアップを図るとともに、中学校教育としての理念を大切にしながら競技に関わることを重視する。本委員会は、関わるすべての人が「やってよかった」と感じられる達成感と充実感を得られる環境づくりを目指す。

II. 行動指針

JVA審判規則委員会による指針を踏まえ、以下を展開します。

1. 多様な人材の発掘と育成

中体連所属の審判員は、教育者としての識見に基づき、後継者の発掘・育成に努め、優れた資質を備えた多様な人材を登用する。審判技術の研鑽が生徒の競技力向上と健全な育成に直結する喜びを分かち合い、S1・S2資格等の取得を自己研鑽とキャリアアップの機会として捉え、組織全体でその挑戦を支援する。

2. 知識の習得と指導体制の構築

競技規則の精神を理解し、理論的・実践的な知識の習得に努めるとともに、正しい判定を行う審判の眼を養う。あわせて、ニューテクノロジーを理解し、適切に活用できる審判の育成にも努める。全国的に統一された指導体制の構築に向け、全ブロックとの連携を強化し、研修の充実を図る。

3. 安全・安心な競技環境の創造

指導者による体罰など、生徒の人間性を損ねる発言や行為、チーム内の暴力やいじめの根絶に努める。また、役員や競技参加者との相互の信頼関係を築くため、マナー・コントロールを審判団全体の課題として捉え、適切に対応する。

4. ルールの正しい理解とフェアプレーの浸透

ブロック講習会等を活用し、選手・指導者を対象に競技規則およびその取り扱いの周知・徹底を図る。部活動の地域展開(クラブチーム化)に対応し、公認審判員、若手審判員、チーム関係者等を対象とした研修機会の拡充を進める。

5. 統一された技術と毅然たるレフェリングの向上

各ブロックにおいて全てのカテゴリーでの活動機会を広げるなど、安定した審判技術とメンタル面の強化を図ることで、大会を通じて統一した判定基準による円滑な運営を行う。競技参加者や観衆に不信感を与えないよう、毅然とした態度を保ちつつ、教育的配慮をもったレフェリングを実践する。

III. 重点項目**1. 生徒役員等の意欲向上について****(1) 生徒役員の指導**

ルールを正しく理解し役割を果たせるよう、コミュニケーションを図りながら指導を行い、自主的・自発的な行動を促す。

(2) 後継者育成の指導

JVA公認審判員としての自覚を促し、S1・S2レフェリー等を目指すことができるよう、各ブロックでの活動機会を広げ、積極的に支援する。

2. ベンチ等の適切なコントロールについて**(1) 信頼を築くゲーム・コントロール**

マナー・コントロールを審判団全員の問題とし捉え、品格ある競技環境の創造のため、教育的配慮に基づくゲーム運営に努める。

(2) スムーズな手続き

ラリー中やラリー間のベンチコントロールも含め、「試合中断の手続き」等の手順を正確に理解・適応することを通じて、スムーズなゲーム運営に努める。

3. レフェリー間の判定基準の統一について**(1) ハンドリング基準の統一**

オーバーハンドを用いたプレーのハンドリングについて、同一の基準に基づき判定する。

① キャッチ

手の中に止まるケースや長くとどまるようなプレーはキャッチの反則であり的確に判定する。

② ダブルコンタクト

2回目のオーバーハンドパスが自コート内に返る場合、連続接触しても反則とならない。但し、アタックヒットが完了した場合は反則となるため、その成立の有無を的確に判定する。

(2) ポジションの反則の確実な判定

レシービングチームのポジションの反則は、サーバーがトスをした瞬間に成立する。セカンドレフェリーは支柱からやや離れ、サーバーとレシービングチームのポジションを視野に入れ確実に判定する。